

豊川市緑の基本計画《令和元年度策定委員会概要》

第1回策定委員会

第2回策定委員会

上位関連計画等の整理

豊川市の緑の現況

豊川市の現況の緑の分析・評価と課題の整理

上位関連計画の整理

- SDGs
- 愛知県広域緑地計画
- 第6次豊川市総合計画
- 豊川市都市計画マスタープラン
- 豊川市立地適正化計画
- 豊川市環境基本計画

etc.

社会的ニーズ 上位関連計画

- 生物多様性の確保
- 気候変動、ヒートアイランドの緩和
- 都市農地の保全
- 森林、水辺の保全
- 都市公園の老朽化対策
- P-PFI など新制度の導入の検討
- 大規模公園の有効活用、機能の充実
- 自然とふれあう空間の整備
- 防災系統緑地の整備
- 都市公園の防災機能の整備
- 良好な景観の保全及び創出
- 街路樹の適正管理
- 市民参加、環境教育、情報発信
- 既存公園の維持管理、改修、再整備
- 既存ストックの再編
- 緑化の推進、公園緑地の整備
- 民有地緑化の支援

豊川市の概況

- 気象条件
- 河川
- 現況植生
- 希少生物
- 土地利用
- 農地環境
- 森林環境
- 観光資源
- 歴史景観資源
- 都市緑化
- 防災拠点
- 官民連携
- 市民参加
- 民有地緑化

緑地現況量

施設緑地は増加しているが、地域制緑地(農振農用地区域・地域森林計画対象民有林)が大幅に減少
⇒H22年度と比較して、約101haの減少

都市公園

- 1人あたりの都市公園面積は12.80㎡/人
- 都市公園の5割以上が供用開始から30年以上経過
- 市街化区域の内、身近に公園がある区域の割合は72%
- 居住誘導区域の内、身近に公園がある区域の割合は78%

現行計画の達成状況

■緑地の保全及び緑化の目標

○達成

- 将来市街地(市街化区域)面積に対する緑地の割合
- 都市計画区域(市域全体)面積に対する緑地の割合

○未達成

- 都市公園として整備すべき緑地
- 都市公園等の施設として整備すべき緑地
- 市民の緑に対する満足度

■「守る緑」の施策目標

○達成

- 里山林保全市民団体の新規設立数
- 巨木及び名木情報のとりまとめ、公表

○未達成

- 市民小菜園の箇所数

■「創る緑」の施策目標

○未達成

- 市街化区域の内、身近に公園がある地域の割合

■「育てる緑」の施策目標

○達成

- ワークショップを行って整備する公園緑地の数
- 市民と行政が協働で管理する公園の割合

○概ね達成

- アダプトプログラム登録団体数

市民アンケート

■緑の役割として大切なもの

- 地球温暖化防止(53%)、生物多様性の確保(39%)、景観形成(38%)

■豊川市の特徴的な緑

- 赤塚山公園(51%)、東三河ふるさと公園(45%)、佐奈川(堤のサクラ)(44%)

■居住する小学校区の緑の様子

- 「神社やお寺の大木や境内林が多い」(57%)、「まちなかに田畑が多い」(35%)、「河川空間に緑が多い」(34%)

■居住する小学校区の緑の量

- 「多くも少なくもない」が最も多い
- 「多い」と「少ない」の回答を比較した結果、「多い」の割合が大きい小学校区は北部及び東部に集中

■10年前と比較した小学校区の緑の量

- 「減った」(44%)、「変わらない」(44%)

■緑を守り増やすために今後行うべきこと

- 「河川沿いの緑の保全」(54%)、「公園や広場の整備」(52%)、「神社やお寺の緑の保全」(30%)

■現在取り組んでいる緑化活動/今後取り組みたい緑化活動

- どちらも上位3点は、「自宅の緑化」、「公園・河川・神社境内等の清掃活動」、「公園・道路・公民館等の美化活動(花植えなど)」

■緑化活動に取り組む上での課題

- 「時間」(57%)が最も多く、次いで「必要な情報の入手」(36%)が多い

■公園の利用頻度

- 「月に2~3回程度」以上利用する割合は全体で28%、小学生以下の子どもがいる回答者で63%

■公園の利用目的

- 「子どもや孫を遊具で遊ばせる・一緒に遊ぶ」(46%)、「健康づくり」(32%)、「休憩・休息」(28%)

■公園・広場に充実させたい点

- 上位3点は、「避難場所としての機能」、「公園施設の安全性確保、老朽化施設の更新」、「子どもが遊べる遊具施設や野外の遊び場」

■アダプトプログラムの認知度

- 制度を「全く知らない」が88%

■身近な公園・広場の日常管理

- 「行政支援のもと、地元が行うのがよい」(35%)が最も多い

6つの視点による緑の現況の分析・評価

【環境保全】

- ヒートアイランドや気候変動リスクが高まっている
- 「宮路山コアフラツツジ」「帯川のホタル」等の天然記念物
- 県レッドリスト掲載種数が増加しており、動植物の生息・生育環境が減少していると考えられる
- 環境保全機能を有する農地・森林の減少

【レクリエーション】

- 佐奈川や音羽川などは、市民が桜や水辺の自然に親しむレクリエーションの場となっている
- 年間500万人以上が訪れる豊川稲荷をはじめとした神社やその周辺の緑は市内外の交流拠点となっている
- 都市公園・都市緑地の5割以上が供用開始から30年以上経過し、公園施設の老朽化の進行している

【防災】

- 都市公園・児童遊園・ちびっこ広場などを指定緊急避難地に指定している
- 防災機能を有する農地・森林の減少

【景観】

- 三河国分寺跡、三河国分尼寺跡、東海道の「御油のマツ並木」など歴史的・文化的な緑がある
- 街路樹の大木化・老朽化・生育環境悪化に対応するため、街路樹の再生を実施している
- 景観の骨格要素となる農地・森林の減少

【協働】

- アダプトプログラム、里山林保全市民団体などの市民活動を実施している
- 農業振興のための市民小菜園が減少している
- 民有地緑化補助金制度があまり利用されていない
- 子ども環境体験ツアーなどの環境学習を実施
- 住民ワークショップを用いた公園整備を実施

【緑の量】

- 農地・森林の減少により市全体の緑の量は大きく減少している
- 1人あたりの都市公園面積(12.80㎡/人)は目標値を達成していないが、全国平均(10.5㎡/人)と比較して高い水準にあり、一定量のストックが確保されている

豊川市の緑の課題

【緑を「守る」に関する課題】

- 本市の骨格をなす山・川・海・農地の緑は多様な機能を有し、都市環境の改善に寄与しており、次世代に継承するために保全していく必要がある。(継続)
- 今ある緑を様々な動植物の貴重な生育・生息空間として保全していく必要がある。(継続)
- 歴史ある緑は地域のシンボルとして保全する必要がある。(継続)

【緑を「創る」に関する課題】

- 都市基幹公園などは、レクリエーションニーズの変化などに対応した整備・充実が必要である。(継続)
- 身近な公園(住区基幹公園など)は、潤いのある暮らしの創造、子育て世代のニーズへの対応、地域の防災性の向上を図るとともに、本市が目指す集約型の都市構造の形成と整合を図った、公園整備・リニューアル・ストック再編が必要である。(継続・新規)
- 老朽化した施設は、利用者の安全を確保するため、効率性に配慮しながら適切な維持管理及び修繕を行う必要がある。(新規)
- 緑の多様な機能を高めるために、緑のネットワークの形成が必要である。(継続)

【緑を「育てる」に関する課題】

- 今後の本市の将来を担う若い世代をはじめとした、市民一人ひとりが豊川らしいふるさとの緑や身の回りの自然への関心を高めることによる、緑の保全や緑化の担い手づくりが必要である。(継続)
- アダプトプログラムや民有地緑化等の地域に根ざした緑の維持・保全等の活動の支援・育成や情報発信が必要である。(継続)
- 緑のまちづくりに対する市民の参加意欲の高まりを踏まえ、豊川らしいふるさとの緑を継続的に育てていくための協働の仕組みや、緑に関する知識や情報の発信が必要である。(継続)

【緑を「活かす」に関する課題】(新規)

- 都市基幹公園などは、レクリエーションのニーズの変化などに対応するとともに、広域的な地域からの集客力を活かし、官民連携を視野に入れた更なる賑わいの創出を図る仕組みづくりが必要である。
- 既存の緑の拠点を効果的に活用・PRすることで、地域の特色を活かした魅力向上が必要である。
- 身近な公園(住区基幹公園など)では、地域のニーズに合致した機能への見直しが必要である。
- 地元と連携した地域の人が使いやすい公園利用のルール作りが必要である。